

銚子ヶ谷湿原の景観と植物の季節変化

11月下旬～4月上旬	降雪、積雪、残雪で湿原は白一色。
4月下旬～5月上旬	イワナシやショウジョウバカマが開花し、カキツバタが芽吹く。
5月中旬～下旬	ヤマドリゼンマイの胞子葉が林立し、レンゲツツジが開花する。 湿原はカキツバタの生長で緑色になる。
6月中旬～下旬	梅雨期。カキツバタが一斉に開花する。
7月中旬～下旬	トキシウ、カキラン、ショウブが開花する。
8月上旬	モウセンゴケ、コオニユリ、ミソハギが開花する。
8月中旬～下旬	サワヒヨドリ、ミソソバが開花する。
9月上旬～中旬	オタカラコウが開花する。
9月下旬	ニッポンイヌノヒゲが開花する。
10月～11月中旬	湿原は枯れ草で一面が茶褐色となる。



ショウジョウバカマ



カキツバタ



ミソハギ



サワヒヨドリ

ニッポンイヌノヒゲ



マナーを守って観察を!

銚子ヶ谷湿原は、学術的価値の高い自然物の保護を目的として県の文化財指定を受ける天然記念物です。また、優れた自然の風景地の保護と利用増進、生物多様性の確保を目的に指定される自然公園内に位置しています。

- ◎湿原は壊れやすく、とても繊細な自然です。湿原に入って、踏み荒らさないようにしましょう。
- ◎草花、昆虫をとらずに観察し、湿原の「素晴らしさ・感動」を持ち帰りましょう。
- ◎ゴミも捨てずに持ち帰りましょう。
- ◎自然のために考え、行ったことを是非お友達に話して下さい。そして自然を大切にしたい心を持っていきましょう。



情報提供をお願いします!

シカ柵は、倒木などにより破損するとそこからシカが簡単に入ってしまいます。シカ柵の破損については速やかに補修する必要があるため、定期的な巡回のほか、来訪者のみなさんにも情報提供をお願いしています。

シカ柵の破損を発見したらご連絡下さい!

香美町教育委員会事務局 生涯学習課

TEL: 0796-94-0101



カキツバタ
群落の保全に
ご協力下さい!

ちょうしがたにしつげん

銚子ヶ谷湿原カキツバタ群落



カキツバタ



アキアカネ



モウセンゴケ



トキシウ



ヤマドリゼンマイ



カキラン



ヒラサナエ

銚子ヶ谷湿原カキツバタ群落

監 修：武田義明（神戸大学名誉教授）

企画・発行：香美町歴史文化遺産活性化実行委員会・香美町教育委員会

編集：公益財団法人ひょうご環境創造協会

平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業） [平成25年6月発行]



香美町歴史文化遺産活性化実行委員会

銚子ヶ谷湿原の生き物

銚子ヶ谷湿原で見られるカキツバタをはじめとする湿原の生き物のほか、湿原周辺で見ることのできる生き物を紹介します。

銚子ヶ谷湿原
1

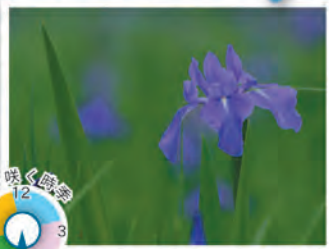
植物



カキツバタ

アヤメ科

根は水底にあり、水上に葉を高くのばします。葉は柔らかく、中央の脈は目立ちません。花の形は長細く全体がスマートで、中央に白～淡黄色の斑紋が入ります。昔、花の汁で布を染めたため、「書き付け花」と呼ばれ、「かきつばた」になったといわれます。優美な風情から好んで栽培されたり、季語や家紋にもよく用いられています。森が新緑の彩りに包まれる頃、一斉に開花する姿は壮大で、鮮やかな美しさが楽しめます。



カキツバタの花の見頃は6月中旬～下旬だよ！



- 🌿 湿原で見られる生き物
- 🌿 湿原周辺の林内や林縁で見られる生き物
- 🔴 R 兵庫県のレッドデータブックに掲載される貴重種

何れ菖蒲か杜若 (いづれあやめかかきつばた)

アヤメ

- ・山野に生える
- ・花に網目模様
- ・葉の中央の脈は目立たない

カキツバタ

- ・湿地に生える
- ・花に白～淡黄色の斑紋
- ・葉の中央の脈は目立たない

ノハナショウブ

- ・湿地に生える
- ・花に黄色の斑紋
- ・葉の中央の脈は突出する

ミヤマカタバミ

バラ科

山地のスギ林やブナ林の林床に生えます。花は白く、花弁に紫色の筋が入るものもあります。葉の柄は長く、3つの小葉からなります。根には古い葉柄の跡がのこり、太さが1cmにもなります。



レンゲツツジ

ツツジ科

朱色の花を咲かせる小型のツツジ。兵庫県では高い山のススキ草原や湿地のまわりに生えます。放牧地では牛がこの植物を食べ残し、「ツツジ畑」ができることがあります。



トキソウ

ラン科

日当たりの良い湿地に生えます。花茎を20cmほど伸ばし、1輪の美しい花を咲かせます。花色は薄いピンク色で、トキ(朱鷺)の羽色にみだてられたことが名前の由来になっています。

カキツバタ群落の危機

シカの食害

増えすぎたシカが2007年頃から湿原のカキツバタを食べるようになり、その影響で、カキツバタの生育面積が減少したり、花の数が少なくなったりしています。

カキツバタが食べられた跡はシカの嫌いな植物が繁茂するようになり、湿原に生育する貴重な植物の中には、近年確認できなくなっているものも見られます。



カキツバタの採食痕

カキツバタ群落をまもる取り組み

シカ柵による食害の防止

シカの食害からカキツバタや貴重な植物をまもるため、湿原の周りに柵を設置して、シカが湿原内に入ることを防いでいます。



シカ柵の設置

低木の伐採

湿原を良好な状態で維持するために、湿原内に広がりつつある低木を伐採したり、抜き取ったりしています。

日照の悪化

湿原の周りのスギが生長して大きくなったことで、湿原の日当たりが悪くなってきています。カキツバタは日当たりの悪い場所に生育することができないので、スギの陰になりやすい場所ではすでに姿を消しています。



湿原の乾燥化

20年前のデータと比べると、乾燥した場所に生えるススキなどが増えていて、湿原が乾燥化していることがうかがえます。乾燥化の原因のひとつとしては、湿原の集水域に生育するスギが成長してたくさんの水を吸い上げるようになり、湿原に流れ込む水の量が減少したことが考えられます。

スギの間伐

湿原の日当たりを悪くし、水を大量に吸い上げてしまうスギを間伐することで、湿原が陰になること、乾燥化することを防ごうとしています。

湿原の周りのスギは大きく育ち過ぎていて伐採がたいへんなので、「巻き枯らし」による間伐も試みられています。



スギの巻き枯らし

歴史は 4,000 年以上

銚子ヶ谷湿原カキツバタ群落

銚子ヶ谷湿原のカキツバタ群落は、国内でも有数規模のカキツバタ群落であり、4,000年の歴史をもつことや、多様な湿原生植物が生育しているということで、兵庫県の天然記念物に指定されています。兵庫県のレッドデータブックでも、最も貴重性の高い群落（Aランク）に位置づけられています。

湿原にはカキツバタ、トキソウ、カキラン、ヒロハノドジョウツナギなどの湿原生植物やヒラサナエ、ルリボシヤンマなどの湿原生動物が見られ、湿原周辺の森林や水辺では、ヒメヘビイチゴなどの貴重な植物やヒメハルゼミ、モリアオガエル、ヒダサンショウウオなどの動物を見ることができます。

位置	香美町村岡区
標高	約 920m
面積	湿原：約 0.2ha, 集水域：約 15ha
歴史	約 4,000 年（花粉の分析結果）



- 兵庫県指定文化財 天然記念物（湿原と集水域）
- 但馬山岳県立自然公園
- 氷ノ山後山那岐山国定公園（特別地域）



マンネンスギ

ヒカゲノカズラ科
柔らかめのスギの葉っぱを立てかけたようなシダ植物で、冷温帯の森林に生育します。よく似たヒカゲノカズラは、つる状に地面をはう性質があり、ほとんど立ち上がりません。



ミゾソバ

タデ科
湿地のほか、河川や池沼にも生えます。名前は溝に生え、葉の形がソバに似ていることによります。花時には金平糖のような薄いピンク色の花をつけます。

ヒメヘビイチゴ

バラ科
落葉樹の明るい森に生育するヘビイチゴの仲間。兵庫県には生育地が2カ所程度しかなく、絶滅が心配されます。銚子ヶ谷湿原の周辺では、シカの食害などにより減少しています。



オタカラコウ

キク科
山中の湿地や溪流に生え、高地では水田の畔や水路にも見られます。黄色い花をたくさんつけ、草丈は1~2mにもなります。根茎の香りが宝香（竜腦香）に似ることや、近縁種のメタカラコウに比べて大型であることが名前の由来になっています。



ショウブ

サトイモ科
葉や根には特有の品のよい香りがあり、端午の節句には「菖蒲湯」に利用します。サトイモ科に属し、カキツバタやアヤメと異なり花は目立ちません。



イワナシ

ツツジ科
草丈の低い草原で地面に貼りつくように生育します。4~5月に花が咲き、6月頃に実ができます。実は「梨」の味には及びませんが、甘酸っぱくて食べられます。

胞子葉の林立



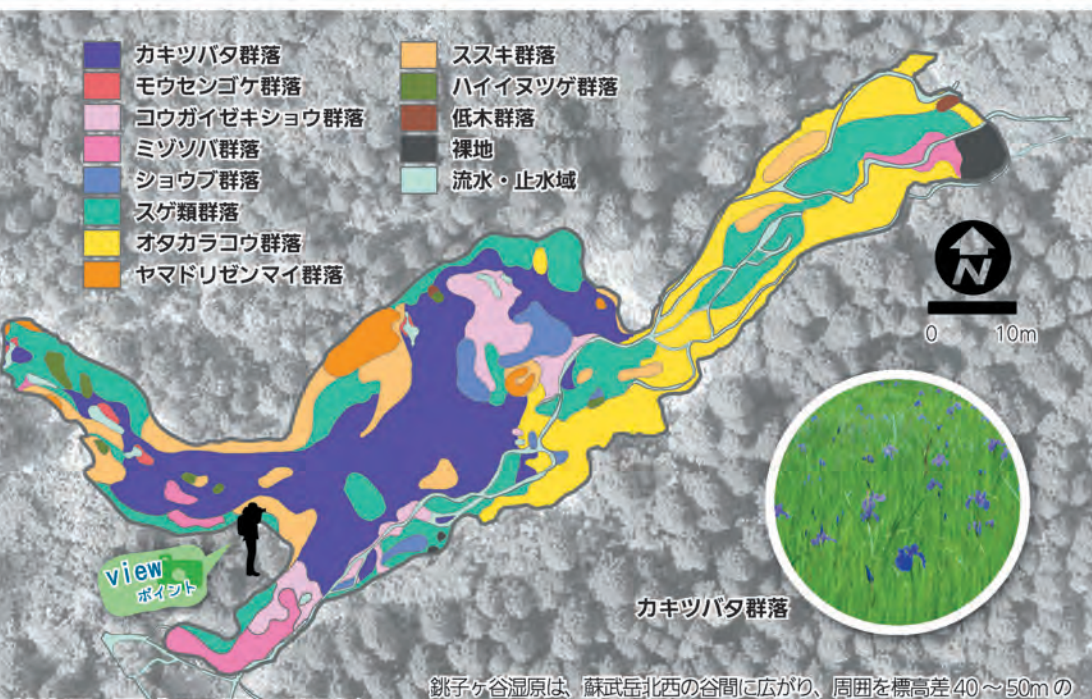
ヤマドリゼンマイ

ゼンマイ科
山野の湿地に生える夏緑性シダです。2つの葉の形があり、内側の細長い茶褐色の葉をヤマドリに見立てて名前が付いたという説があります。外側の緑色の葉は、若芽の時に食用になります。



外側の緑色の葉は栄養葉、内側の茶褐色の葉は胞子葉。

- カキツバタ群落
- モウセンゴケ群落
- コウガイゼキショウ群落
- ミゾソバ群落
- ショウブ群落
- スゲ類群落
- オタカラコウ群落
- ヤマドリゼンマイ群落
- ススキ群落
- ハイイヌツゲ群落
- 低木群落
- 裸地
- 流水・止水域



銚子ヶ谷湿原は、蘇武岳北西の谷間に広がり、周囲を標高差 40~50m のスギの人工林が発達する緩やかな斜面で囲まれています。

植生図（平成 24 年 6 月現在）

テツカエデ

カエデ科
葉っぱに切れ込みの少ないカエデの仲間。ウリハダカエデと見た目はよく似ていますが、この植物の方が触り心地がぶよぶよによんでいます。



湿原には約90種類の植物が生えているよ



2 動物



ミソサザイ

ミソサザイ科
日本最小種の一つですが、大きく長く鳴きます。「弱そうに見えて器用、楽々としている」といった印象があるため、「森の王」と呼ばれて伝承や民話にも登場する古くから知られる鳥です。



ウラギンヒョウモン

タテハチョウ科
ヒョウ柄の模様を持つヒョウモンチョウ類の仲間。幼虫の食草であるスミレ類が生える明るい草原、河川敷、湿地、スキー場など、草原が維持される場所に生息します。成虫は年1回、6～7月に見られます。



ヒラサナエ

サナエトンボ科
高地の山間湿地や細流で、オタカラコウが生えているような湧き水のある湿地に生息します。オタカラコウの葉が水面まだ覆っていない6月中旬までに産卵が行なわれます。



エゾハルゼミ

セミ科
ブナ林などの落葉広葉樹林に生息します。北海道や東北地方を意味する「エゾ」が名前に付きますが本州～九州にも生息します。「ミョーキンミョーキンケケケ...」とユニークに鳴きます。



モリアオガエル

アオガエル科
森にすむカエル。産卵期になると池沼や湿地の水面上に張り出した枝上に集まり、メスは泡をつくって中に卵を産みます。1匹のメスと何匹ものオスが集団になって産卵します。



アキアカネ

トンボ科
最も代表的なアカトンボの一種です。6月頃に羽化した直後はオレンジ色ですが、夏に高地へ移動し、秋に再びの水田などへ下りてくる頃は、すっかり赤色になっています。



ツボスミレ

スミレ科
丘陵、山地、草地、林などの湿ったところに普通に生えます。名前のツボ(坪)は庭を指し、身近に見られることに名前が由来します。



ギンリョウソウ

イチヤクソウ科
光合成を行わず、根に共生する菌類をとおりて養分を吸収する腐生植物。銀のウロコがあるようにみえることから、銀竜草という名がつけました。薄暗い森の中でぼんやりと輝く、不思議な雰囲気をもちます。



ルリボシヤンマ

ヤンマ科
北方系のトンボで、最後の氷河期後の温暖化とともに高地に取り残されたと考えられる種です。成虫は8～10月に湿原や抽水植物が繁茂する比較的浅くて小さい沼などで見られます。



フジミドリシジミ

シジミチョウ科
ゼフィルスと呼ばれるミドリシジミ類の仲間です。幼虫はブナの葉を食べ、成虫は年1回、6～7月にブナの林やその周辺で見ることができます。水色に輝く美しい姿に多くの方が魅了されます。



モウセンゴケ

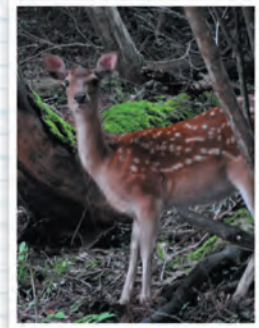
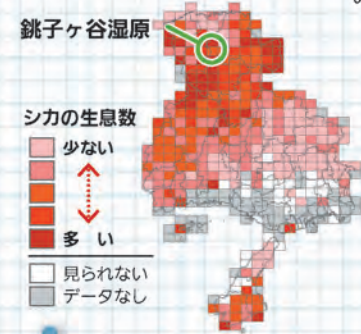
モウセンゴケ科
栄養の乏しい湿った裸地などに生える食虫植物。葉の腺毛から出る粘液で虫を捕え、溶かして養分を吸収します。赤いフェルト生地を毛せんといい、群生するとそれに似ていることから名付けられました。

サワオトギリ

オトギリソウ科
サワオトギリの葉は先がまるく、基部にかけて細くなります。コケオトギリの葉は小さく、基部にかけて広がりが抱えます。どちらの葉にも透明点がありますが、サワオトギリには黒点が混じります。

ニホンジカ

シカ科
近年、狩猟者が減ったことや、温暖化の影響で生息数が増えています。密度の高い場所では、植物を食べつくしてしまうため、植物を守るにはシカ柵を設置するなどの防除対策が必要になります。



※「第4期シカ保護管理計画」(兵庫県)より作成